

平成23年度 第1回 機械工業振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

開催日時:平成23年5月30日(月) 15:00~17:00

開催場所:財団法人 JKA 4A・B会議室

出席者(委員)大山永昭(委員長)、金子聰、市江正彦、岡俊子、梶川陽二、
鴨志田晃、中原秀樹、丹羽富士雄、吉岡忍 (五十音順・敬称略)

(事務局)笹部俊雄、竹内紀文、宮田昌之、池田稔、佐藤弘和

[議題]

1. 補助事業審査・評価マニュアルの一部改正について(案)
2. その他

[審議結果]

- ・ 審査・評価マニュアルの「評価の流れ」に係る改正については、原案通り承認された。
- ・ 審査・評価マニュアルの「複数年度にわたる補助事業の審査の客観的基準制定」に係る改正については、委員長一任となった。

[意見概要]

<複数年度の基準>

- ・ 原則は単年度事業である。
- ・ 技術開発は複数年ではなく単年度で結果を出すものである、という考えもある。
- ・ 要望が複数年度であっても、委員の審査で単年度事業にしても良いのではないか。
- ・ 複数年度で要望する際には、その旨を明確にすべきである。ただし、その場合翌年度以降もきちんと審査をするべきである。
- ・ 複数年度事業であっても、例えば3年トータルではなく毎年の計画を示してもらうことが必要である。しかし、2年目の審査に1年目の成果を取り入れようとすると、時期によってはまだ成果が出ていない場合もある。
- ・ 複数年の基準を限定的に書くのではなく、基本的な考え方などで示す方が良いのではないか。

- ・ 補助方針の中に記載すると要望者にわかりやすく申請もしやすいのではないか。

<補助方針>

- ・ 研究補助の金額は、100万円や300万円で推進できないものもあるのではないか。特に震災復興に関するものは、高額でなければ効果が出ないものもあるのではないか。
- ・ 被災地のニーズはその時々で変わるので、柔軟に対応すべきである。三陸地方の漁業は非常に悲惨な状況で、漁場の調査なども望まれている。
- ・ 委員会で評価した結果を「補助事業者に伝える」ことは、補助事業者がその後事業を実施する上で大事なことである。

(意見は順不同)

*本議事要旨は、(財)JKA事務局が作成